

ドイツ自転車市況－2023

1.ドイツ国内における保有台数、生産数、供給数について

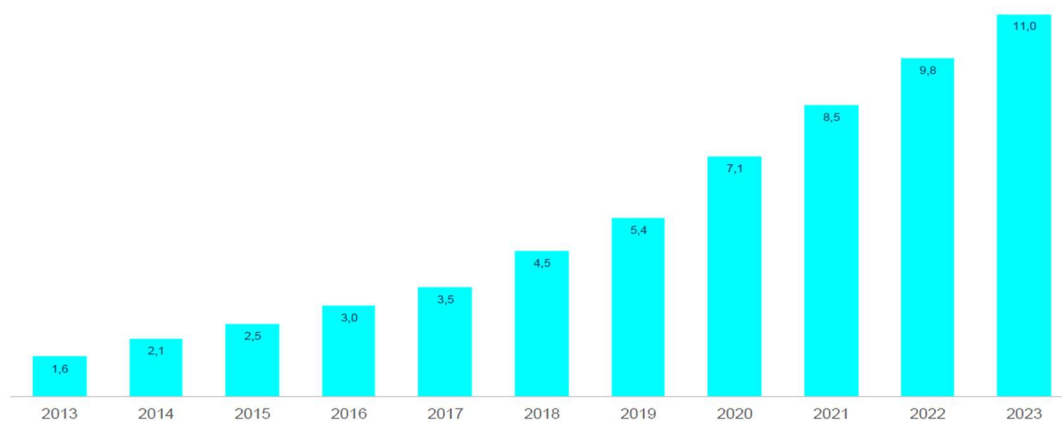
ドイツ国内における保有台数(単位：100万台)



ドイツ国内における保有台数（自転車及び電動自転車）は年々増加傾向にあり、2019年以降合計810万台増加した。ドイツ国内の販売市場について成長の余地があると考え。成長の原動力として、古い自転車の買い替えに加えて異なる種類の自転車を複数台保有する傾向にあることがあげられる（例アーバン、スポーツ、カーゴタイプなど）。

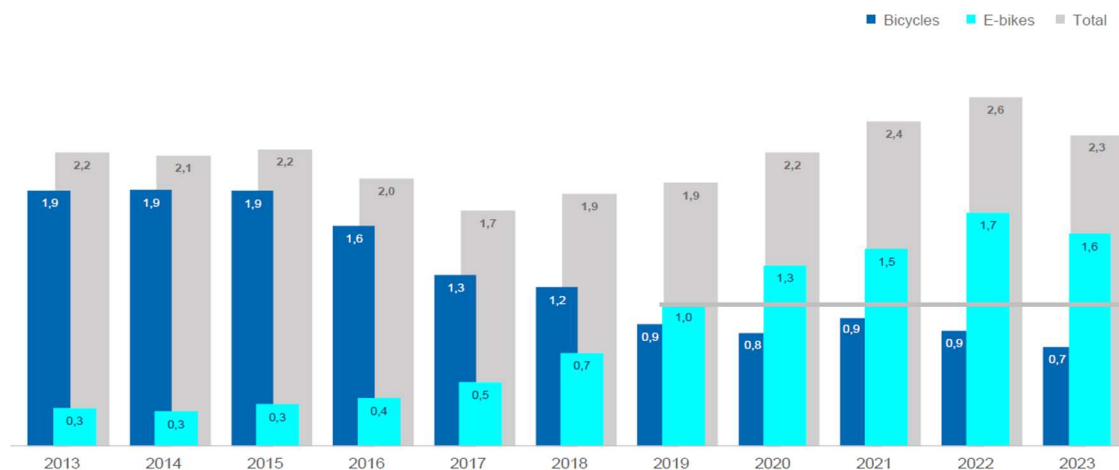
このように高水準の安定した需要から、自転車と電動自転車の保有台数は過去10年間で急激に増加し、2013年の7,100万台から現在では8,400万台にまで増加、2013年以来合計1,300万台増加(+18%増)した。

ドイツ国内における電動自転車保有台数(単位：100万台)



2023 年末時点での保有台数は 1,100 万台を突破し、この 10 年間で保有台数が 7 倍までに増加した。現在ドイツ国内の乗り物市場（電動）において電動自転車は上位を占めるまでに成長した。

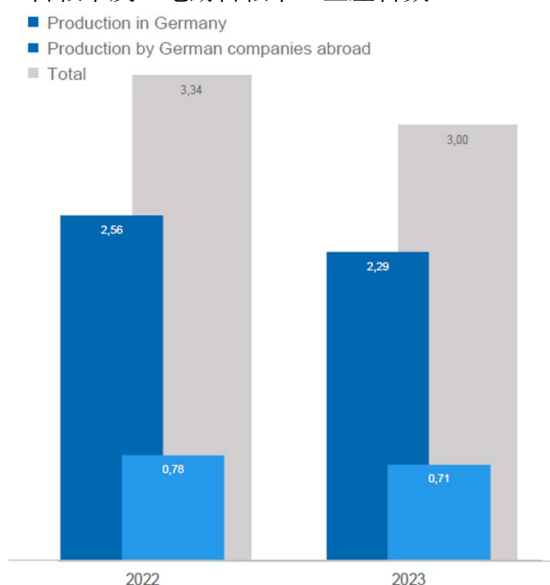
ドイツ国内における自転車及び電動自転車の生産台数（単位：100 万台）



総生産台数は、2022 年度と比較して 11%減の 230 万台であり、電動自転車の生産台数は 2022 年度と比較して 5.9%減の 160 万台と生産数は減少しているものの依然高い水準を維持している。

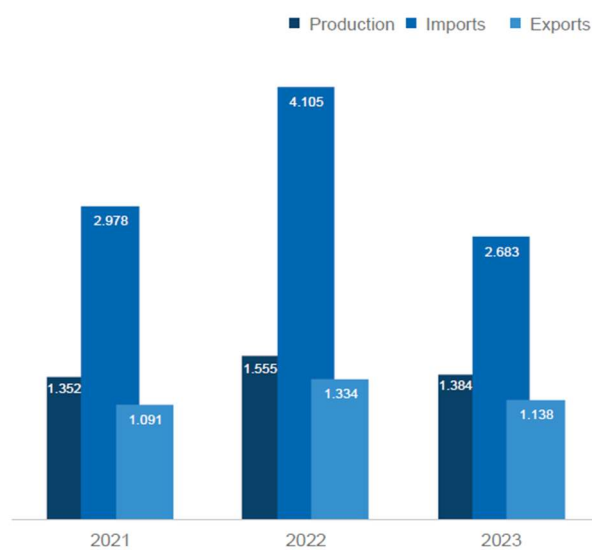
このように全体的に高水準で安定した電動自転車の生産台数は自転車業界を牽引している。

ドイツ企業の国内外での自転車及び電動自転車の生産台数



ドイツ企業の国外生産拠点の生産ラインの拡張が行われておりその結果、約 71 万台の自転車と電動自転車が生産された。そのうち、約 85%が EU 域内で生産された。ドイツ企業によって国内外で生産された自転車と電動自転車の総台数は 300 万台にのぼる。

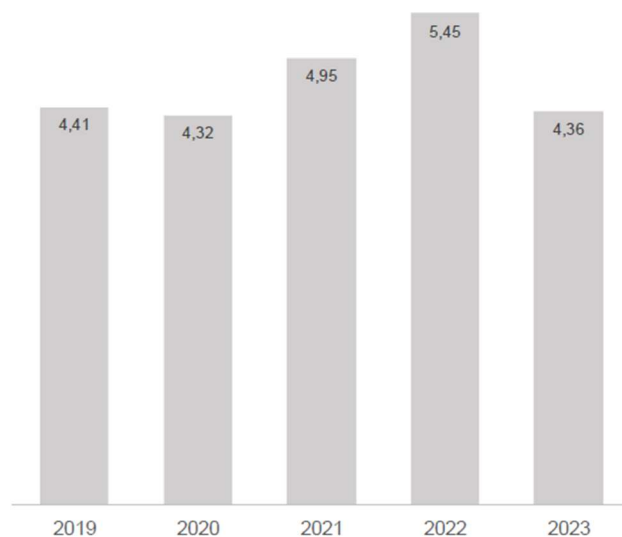
ドイツ国内の市場データ (単位：100 万€)



サプライチェーンの解決により、輸入台数が回復した。輸出台数は安定した水準を維持している。ドイツ国内での高度な垂直統合により非常に安定した生産台数及び輸出入台数を確保した。

販売店への自転車及び電動自転車のドイツ国内供給台数 (単位：100 万台)

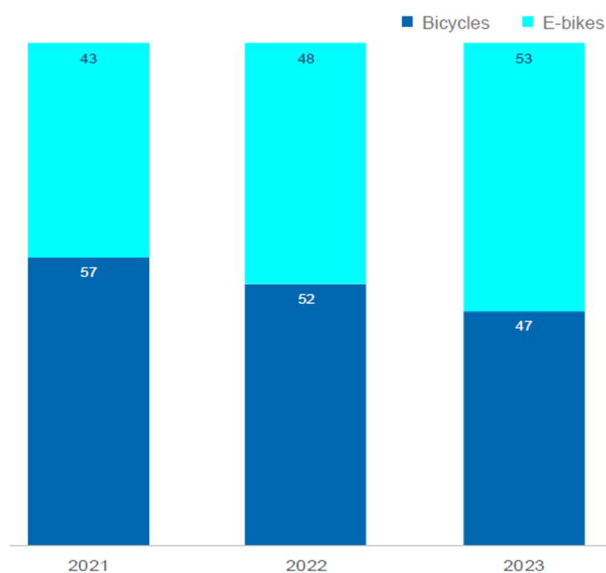
$$\text{国内供給台数} = \text{生産台数} + \text{輸入台数} - \text{輸出台数}$$



2023 年のドイツ国内販売店への供給台数は 436 万台。2022 年以降において在庫台数が残るため供給台数が減少したが自転車業界の景気は好調である。

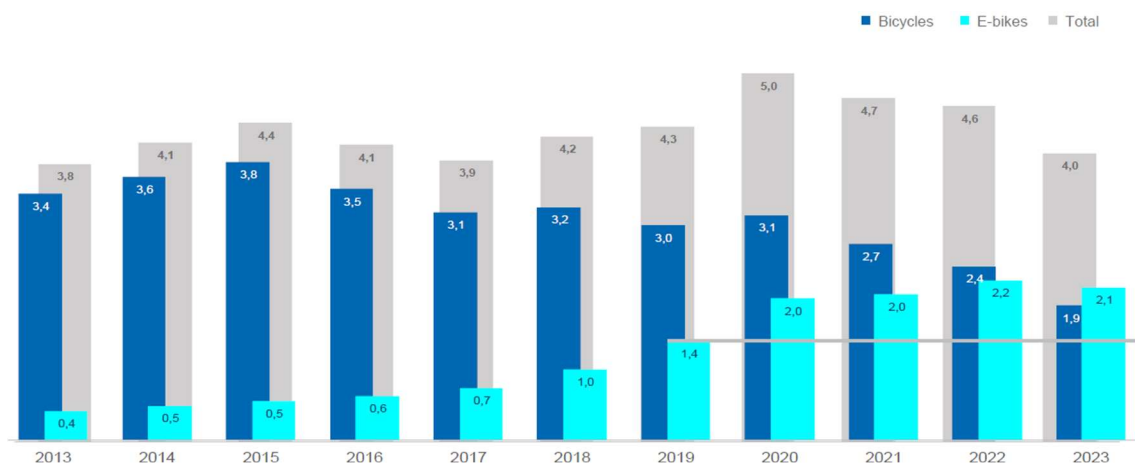
2. ドイツ国内における自転車及び電動自転車販売数

ドイツ国内で販売された自転車と電動自転車の割合（割合比）



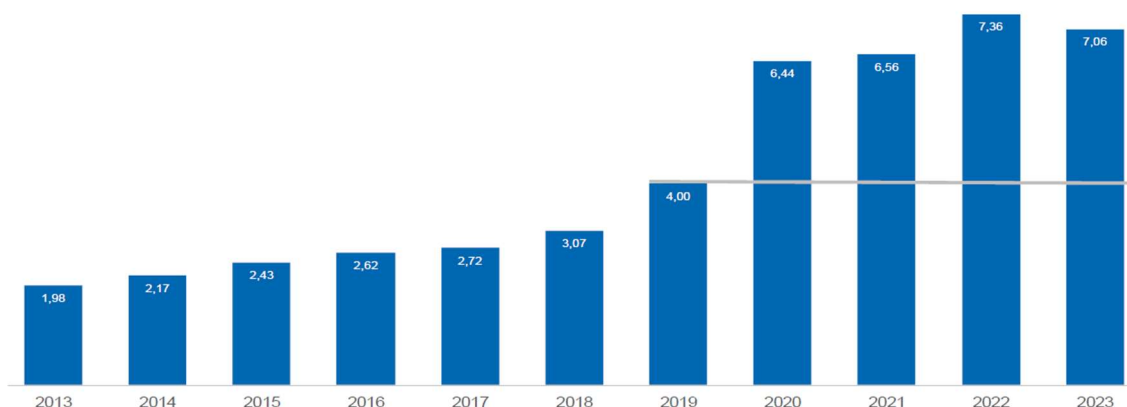
自転車の売上が190万台（47%）で、電動自転車が210万台（53%）となり、電動自転車の売上高が初めて50%を超え、電動自転車が自転車の販売台数を抜いた。

ドイツ国内における自転車及び電動自転車の販売台数（単位：販売台数）



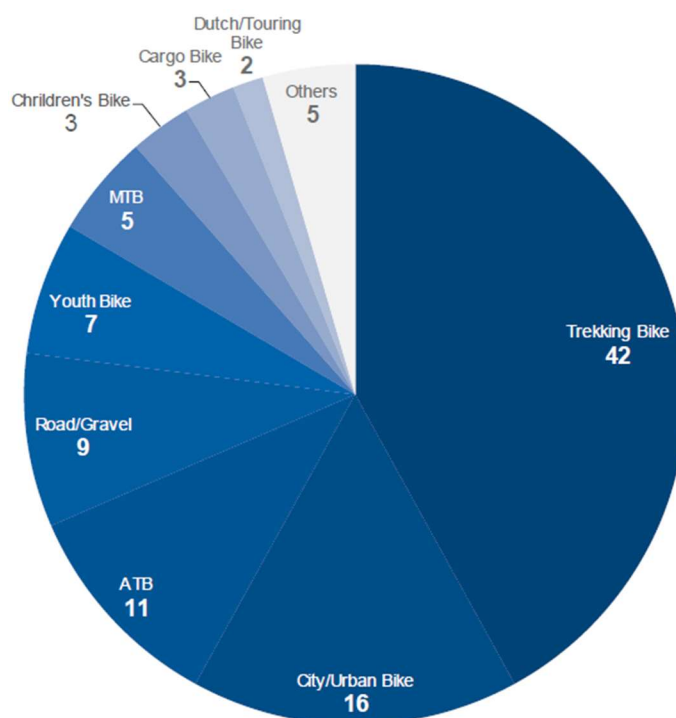
2022年と比べ販売台数は減少しているなかでも、2023年の電動自転車販売台数は2018年の2倍以上、2013年の5倍以上に増加している。

ドイツ国内における自転車と電動自転車の売上高の推移(単位：10 億€)



2020年からの自転車ブームによって、売上高は一貫して高い水準を維持しており、自転車業界は消費者信頼指数のマイナスをものともしない状況となっている。

自転車種類別売上割合

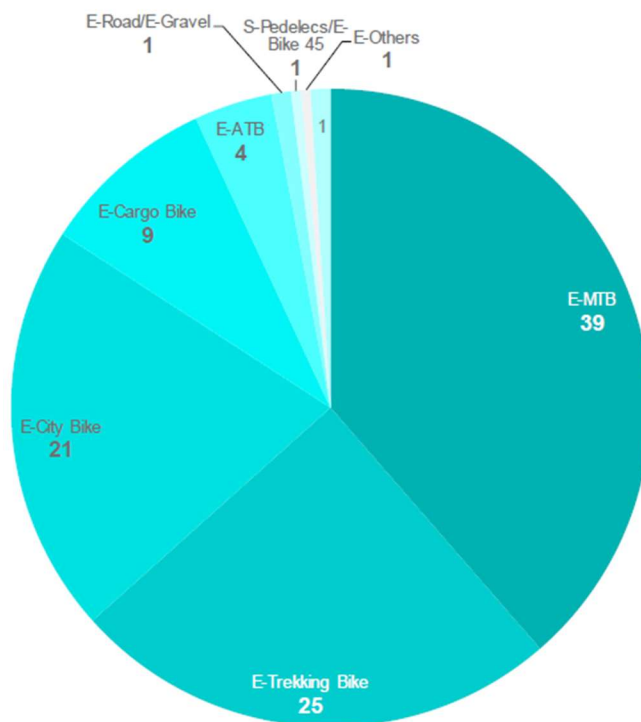


現在多目的自転車が販売市場の売上の大部分を占めている。特にトレッキング、シティ/アーバン、ATB（軽度荒地対応自転車）等の日常だけでなくレジャー用としても使用できる自転車が販売の3分の2以上を占めている。

全製品カテゴリにおいて、日常用自転車が市場の86.5%を占めている(子供用、ユース及びその他の自転車を除く)。そのなかでもトレッキングバイクが42% (2022年: 45%) で最大の割合を占め、シティ/アーバンバイクが16% (2022年: 18%)と続く。電動モーターを

搭載しない従来の MTB は 5% で安定している。

電動自転車売上割合

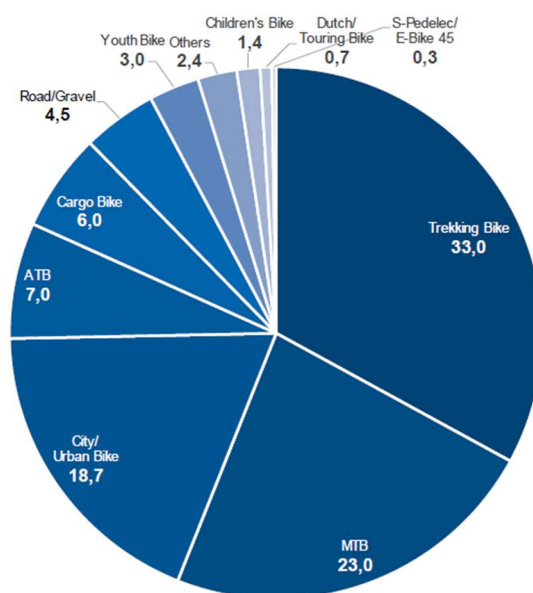
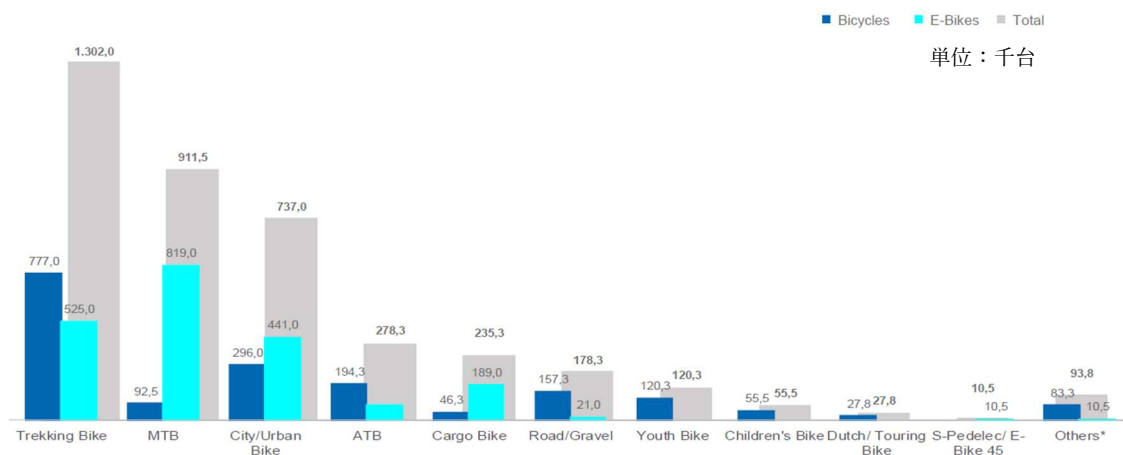


電動 MTB は高い人気を維持している。電動トレッキングバイクが長い間首位を維持していたが、2021 年に電動 MTB がブームになり、初めて首位に立ち 2023 年現在も首位を維持している。電動シティバイクと電動トレッキングバイクが若干減少 (2022 年と比較して -3% 減少) した。電動カーゴバイクは近年人気が高まっており、2023 年は 189,000 台 (2022 年: 165,000 台) で増加率: 14.5% となりカテゴリ内で増加率が 1 番大きかった。また、新カテゴリとして E-ATB が登場した。

【各自転車の昨年度との比較図】

| 電動自転車種 | 割合 (%) | 販売台数：2023 年 | 販売台数：2022 年 | 増減率 |
|----------------|--------|-------------|-------------|-------|
| MTB | 39 | 819,000 | 836,000 台 | -2% |
| トレッキングバイク | 25 | 525,000 | 616,000 | -14.7 |
| シティサイクル | 21 | 441,000 | 528,000 | -16.5 |
| カーゴバイク | 9 | 189,000 | 165,000 | 14.5 |
| レース/グラベル | 1 | 21,000 | 22,000 | -4.5 |
| Speed pedelecs | 0.5 | 10,500 | 11,000 | -4.5 |

カテゴリ別自転車・電動自転車の売上台数



総括: ほとんどの自転車と電動自転車は、日常使用とサイクリング旅行の両方に適していると考えられる。

カーゴバイクの販売 (単位：1000 台)



カーゴバイクでも特にアシスト付きがブームになっている。この大幅な成長(+ 14.5%)は、特に電動カーゴバイク人気の影響が大きい。理由として電動アシストの登場により、多くの人が手軽に使えるようになったことがあげられる。

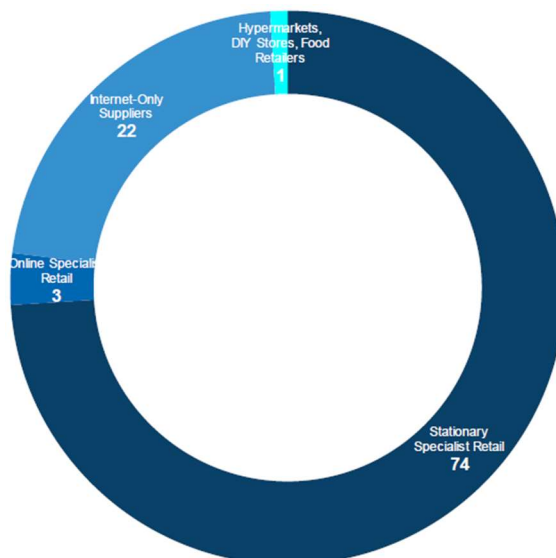
サイクルトレーラー市場

| 子供の輸送手段 | |
|------------------|------------|
| シート | 55% |
| サイクルトレーラー | 42% |
| カーゴバイク | 15% |
| その他 | 10% |

サイクルトレーラーの市場は他の自転車と比べて過小評価されている傾向にある。しかし、サイクルトレーラーは自転車用シートに次いで、サイクルトレーラーはドイツ国内における子供を運ぶための一般的な手段となっている。

3. ドイツ国内における売上額、小売販売価格、価格展開

自転車の購入先割合



消費者は品質を重視し、販売店の購入アドバイスやサービスを高く評価する傾向があり、専門店のシェアは依然として77%と高い。そんな中で、ネット通販専門店の割合が22%と去年と比較して1%増え、ハイパーマーケット（欧州で主流の郊外型総合スーパー）、DIYストア、食品販売店といった専門店ではない対面販売の割合が減少し続けている（2022年の2%から2023年には1%に減少）。

ドイツ国内における自転車と電動自転車の平均販売価格

全ての販売経路および製品カテゴリの平均総販売価格 (€) (専門店以外も含む):

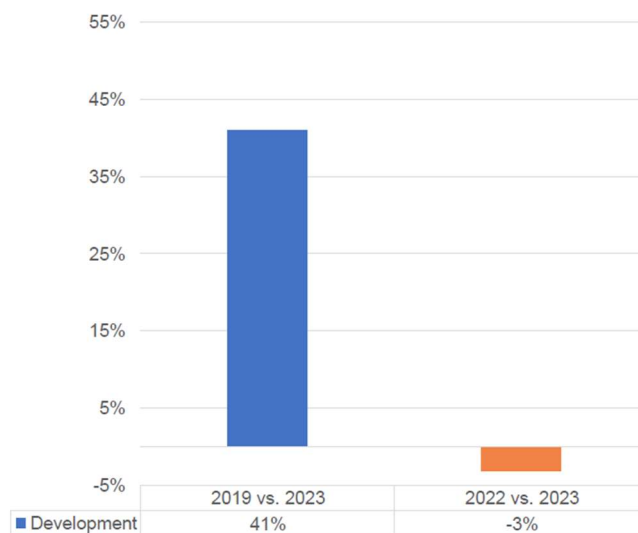
| | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 |
|---------------------------|------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| Bicycles | 343 | 445 | 466 | 500 | 470 |
| E-bikes | 2,200 | 2,600 | 2,650 | 2,800 | 2,950 |
| Bicycles + e-bikes | 929 | 1,279 | 1,395 | 1,602 | 1,788 |

インフレに伴う価格上昇は比例的で、安定した物価水準が維持されている。消費者は引き続き、特に電動自転車に関して、高品質と優れた技術に注目している。

* 特に、高価なカーゴバイクの割合が増加しており、平均価格も上昇の要因となっている。

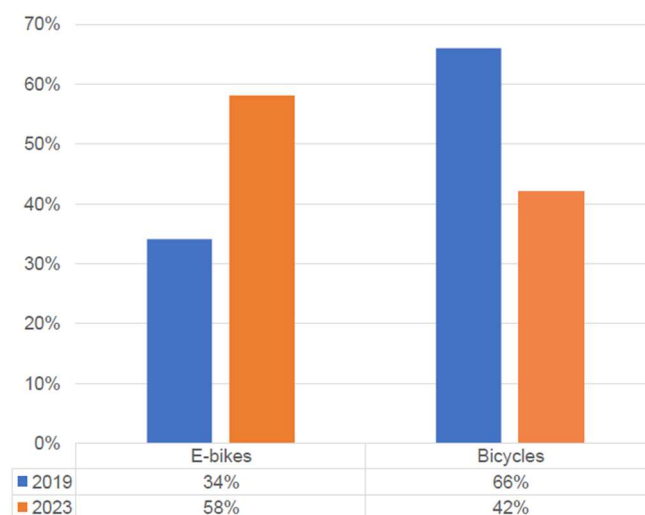
専門店における各種データ-2023 年 小売業者調査結果

2019 年から 2023 年までの売上展開



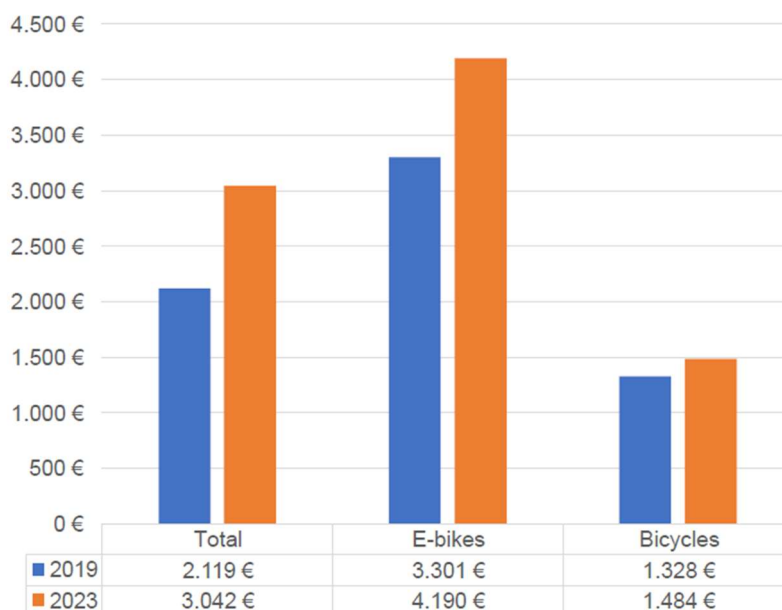
2020 年の好景気以来、専門店の売上高は 40%増加しており、専門店は 2023 年も高水準の売上高を維持し続けている。

専門店の電動自転車販売割合



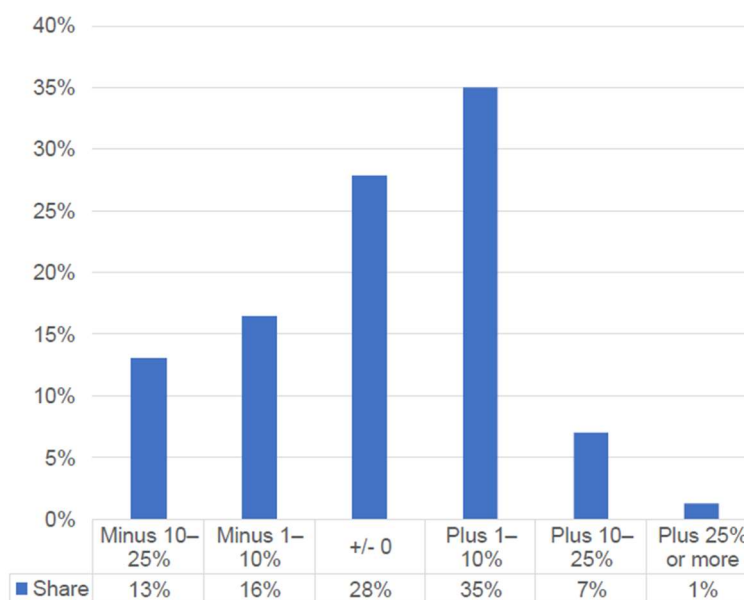
2023 年に、電動自転車が専門店ですべて自転車の販売台数を超えた。

平均販売価格



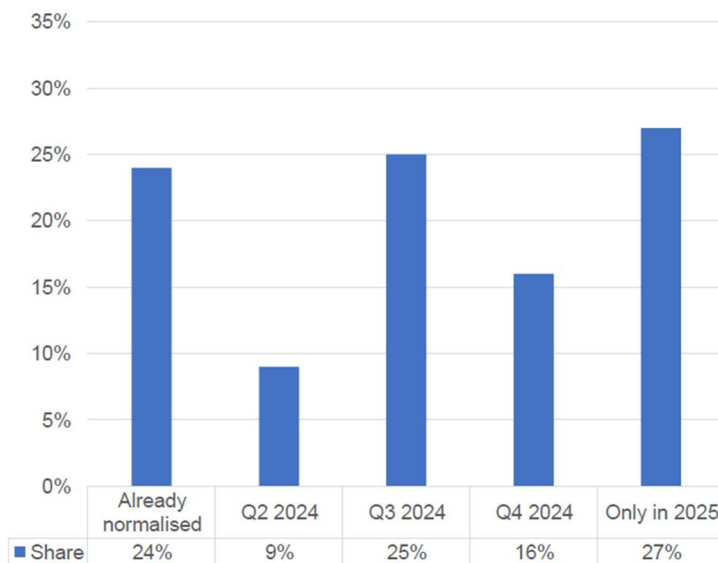
専門店の顧客は高品質の製品を選択する傾向がある。特に電動自転車にその傾向がある。インフレ調整後、電動自転車セグメントの平均販売価格は13%の緩やかな上昇にとどまった。

2024年に予想される販売展開



専門店の約70%が、2024年シーズンの売上高は0からプラスになると予想している結果となった。

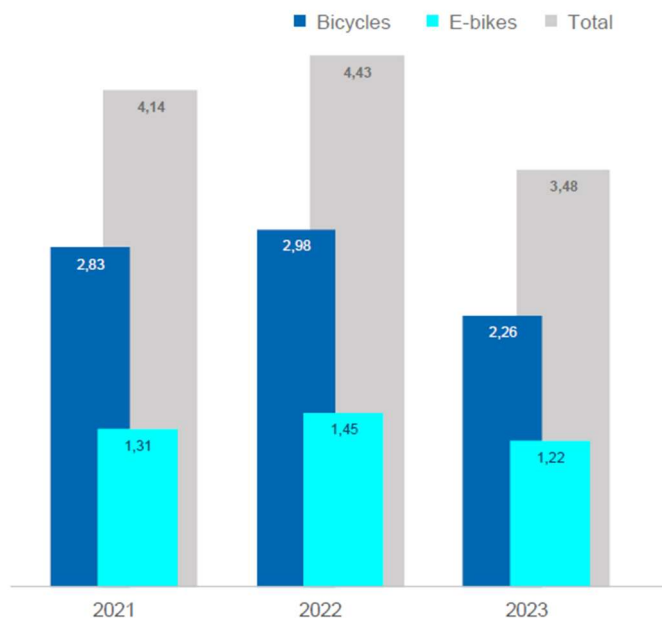
在庫水準が正常化するまでの予想期間



専門店の3分の1は、2024年の夏までに余剰在庫がなくなると予想し、専門店の74%は、シーズン終了前に在庫レベルが正常化すると予想しており、消費の拡大に期待を寄せている。

4. 輸出入

ドイツへの自転車と電動自転車の輸入（単位：100万台）



輸入は在庫水準の高さと国内生産の好調に比例している。2022年の443万台と比較して、2023年には348万台の自転車と電動自転車がドイツに輸入された(-21%)。

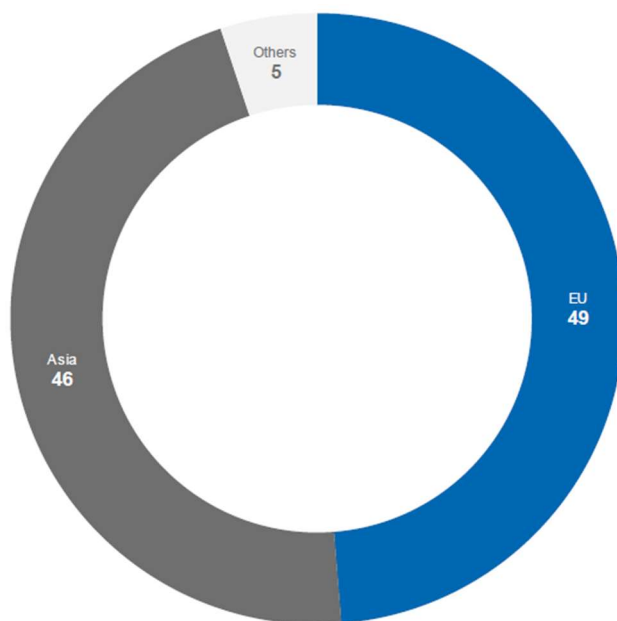
備考:一部のドイツメーカーは近隣のEU諸国に生産拠点を所有。

ドイツへの自転車と電動自転車の輸入（単位：100万台）



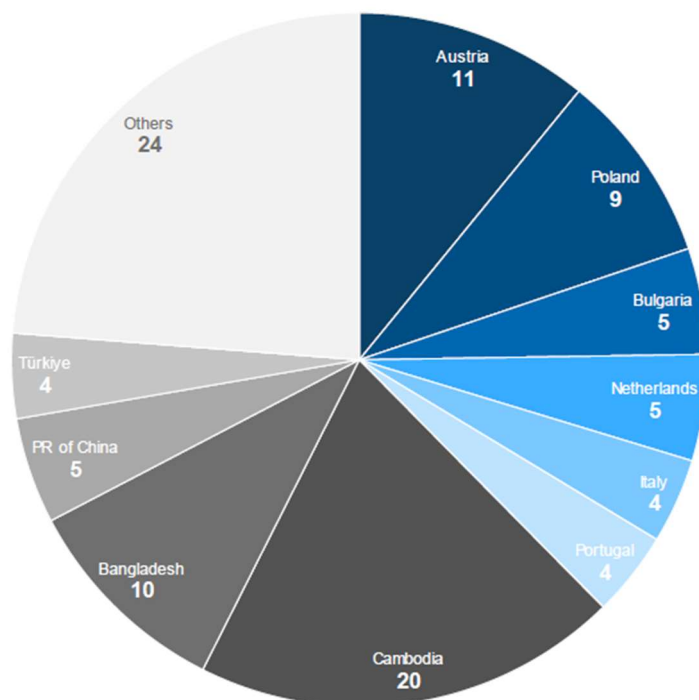
2023年は国内での製造台数と同様に輸入品でも若干の減少がみられる。

ドイツへの自転車（電動自転車を除く）の輸入（割合）



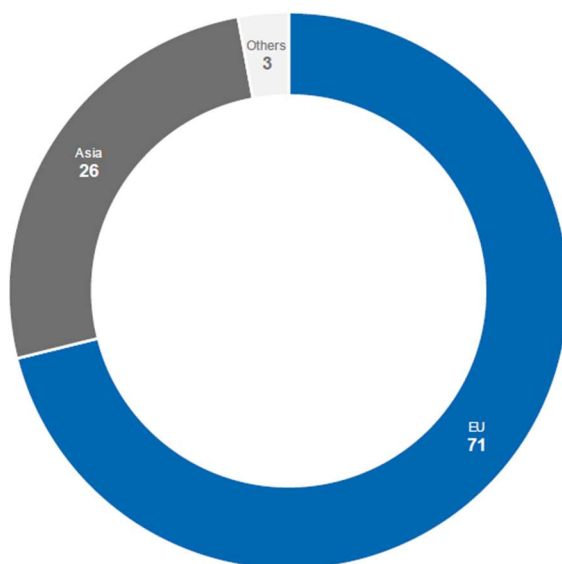
EUの割合が拡大(2022年：44.3%)し続けており、EU域内で生産することの重要性は増し続けている。EU域内からの輸入量が増加したことにより、アジアからの輸入割合は減少した(2022年：55.1%)。近年、EU域を含めた国内回帰の傾向がみられるようになった。

ドイツへの自転車輸入量（電動自転車を除く）の割合（割合比）



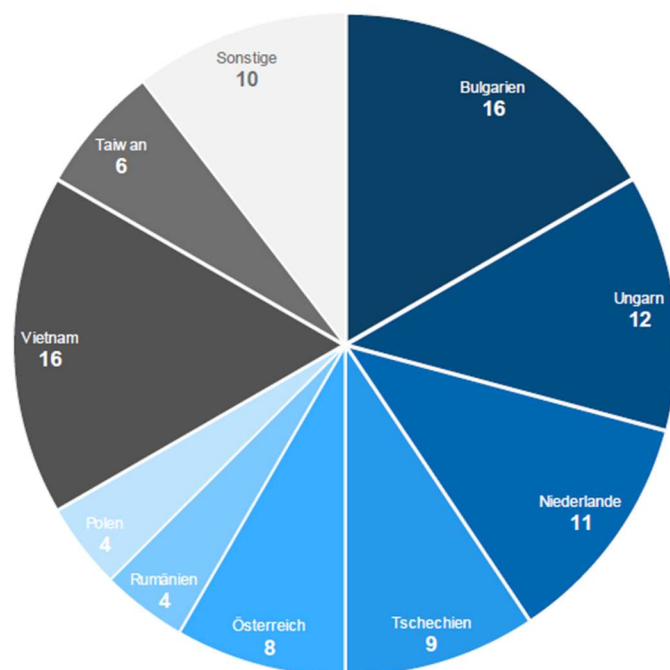
主要輸入国としてカンボジア（20%）がある。他国と比較して、EU 域内とも比較しても大きな差が目立つ。

ドイツへの電動自転車輸入割合 - 地域別（割合比）



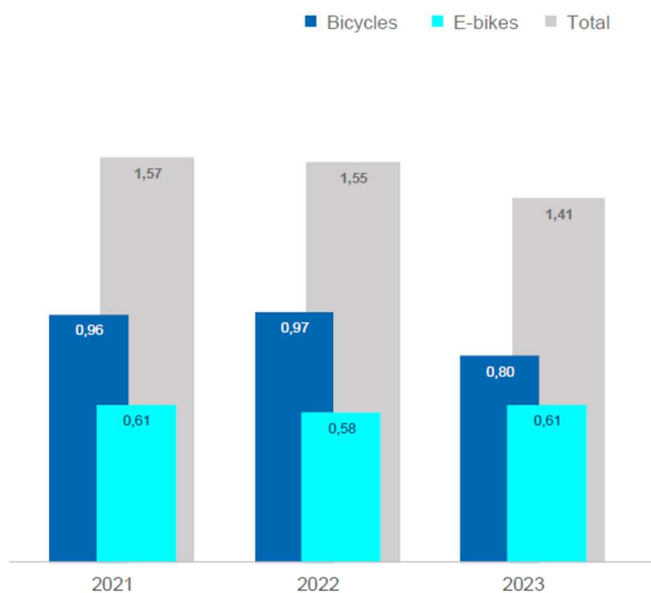
現在、EU 域内からの輸入台数は域外と比較して約3倍差がある。EU 域内から輸入される電動自転車の割合は2023年には約71%（2022年：69%）となった。アジアからの輸入の割合は26%と若干減少（2022年：27%）。また、中国製品に対するアンチ-ダンピング関税による保護が機能しており、市場の安定に引き続き必要である。

ドイツへの電動自転車輸入の割合 - 国別 (割合比)



EU 域内での最大の供給国は順にブルガリア、オランダ、ハンガリーとなった。アジアからの最大の供給国は、ベトナム、台湾となっている。

ドイツへの自転車と電動自転車の輸入台数 (単位: 100 万台)



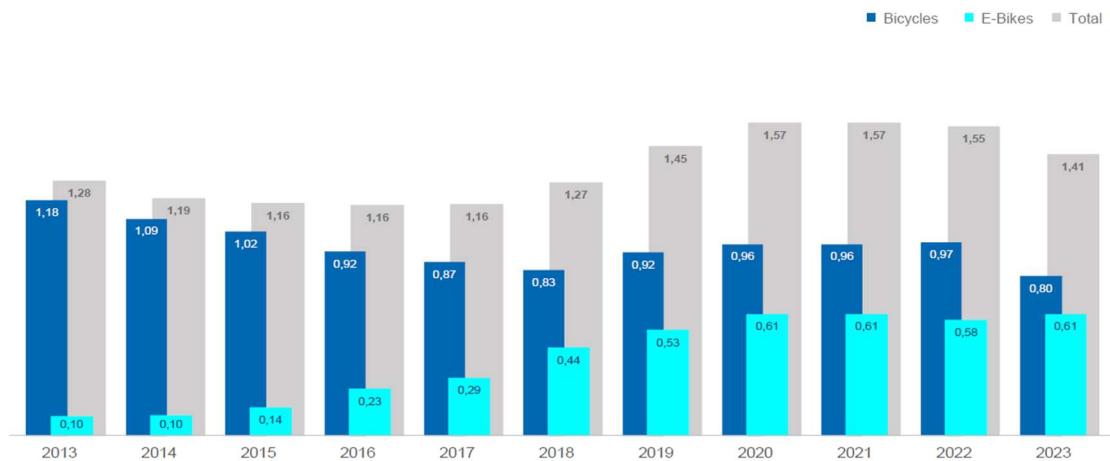
普通自転車の輸入台数は減少したが電動自転車の輸入は微増した。

(累計輸出台数 795,000 台 - 前年より 175,000 台減少)

電動自転車の輸入台数は前年比わずかに増加 (3 万台増の 61 万台) が総自転車輸入台数は微

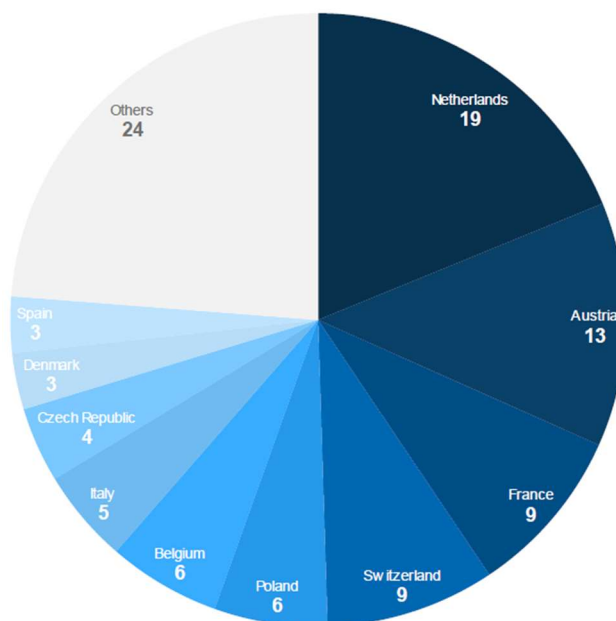
減した（15,000 台減の 141 万台）。

自転車と電動自転車の輸出台数（単位：100 万台）



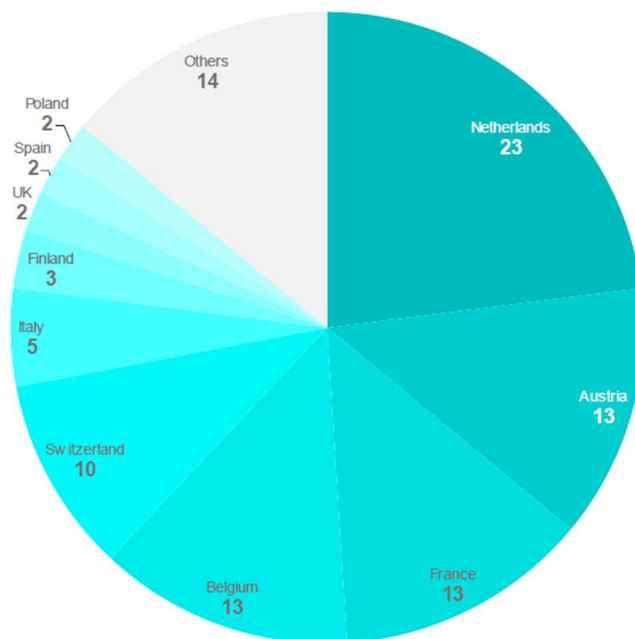
電動自転車の輸出は引き続き好調だが、全体的に輸出は若干減少した。

自転車輸出（電動自転車を除く）の割合（割合比）



自転車のほぼ 93% が EU/EFTA 諸国に輸出されており、主な輸出先としてオランダが 19% と割合が高く最も重要な輸出先であり、オーストリアが 13%、フランスが 9% と続く。「ドイツ製」自転車は他の欧州諸国でも依然として高い需要がある。

電動自転車輸出の割合（割合比）



ドイツ国内で生産された電動自転車は 98%以上が EU/EFTA 諸国へ輸出されている。非電動の自転車と同様に、オランダが依然として 23%と割合が非常に高く、ドイツ自転車産業にとって最も重要な輸出国である（2022 年：138,000 台 24%）オランダから少し差があるが、ベルギー（2022 年：11%）、オーストリアとフランス（2022 年：12%）が 13%、スイスが 10%（2022 年：11%）、イタリアが 5%（2022 年：6%）と続く。

2 つのグラフから見てわかる通り、ドイツの自転車産業にとってオランダは最大の顧客である。オランダからの非常に高い需要の背景には、オランダの交通政策が反映されている。

以上

出所：ZIV_Market_Data_Presentation_2024_for_2023（ドイツ二輪産業協会（ZIV））